

## 南アフリカ 柑橘類の輸出予測は安定

EUROFRUIT 2024年9月16日

### 総輸出量の最新の予測は前年よりわずかに多い1億6,550万箱

南アフリカは今シーズン、昨年よりも多くの柑橘類を輸出する可能性が高く、最新の予測は1億6,550万箱となっている。

今シーズンこれまでは、果汁市場が好調だったため、加工用の出荷を増やした生産者が多く、その結果、生鮮輸出量の予測はシーズン当初の1億8,170万箱から最新の予測に低下した。

情報筋によると、重要な市場で南アフリカ産果実が不足しているとの認識が広がっていることを背景に、生鮮市場の収益性が改善した。

また、あるコメンテーターは、「南アフリカの柑橘類業界の幹部たちが今年もまた、過去数年間そうであったように、すべてのオレンジのヨーロッパ向け輸出検査を早期に終了すると発表する可能性は低い」と指摘した。

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は業界向けの最新のブリーフィング文書で、「シーズンが進む中で品目別部会が何度も下方修正を行ってきたが、最近では好調な市場環境がシーズン後半の輸出を促進し、上方修正の傾向にある。2024年の輸出向け検査合格数量の合計は現在、2023年の水準をわずかに上回っているが、当初の見通しやビジョン260(業界目標の2億6千万箱)の水準をはるかに下回っている」としている。

主として国の北部と東部の生産者と輸出業者に影響を与える早期の検査終了を検討しない主な理由は、カンキツ黒星病を理由とする欧州当局の不合格判定が前のシーズンよりも少ないためであると報告されている。

また、現在最終段階に移行しつつある南アフリカと欧州連合との間のWTO手続きにも関係があると考えられる人もいる。ある情報筋は「WTOのプロセスに照らして、誰も船を大きく揺らしたくないことは明らかだ」と述べた。

ただし、シーズン後半まで輸出量を維持したい全く普通の販売上の理由 - 通常の供給条件によるヨーロッパでの品不足の恐れ - があるかも知れない。あるオブザーバーは、「不足が起こると経済原則が効いてくるため、これが現在起こっていることかも知れない」と概説した。

いずれにしても、南アフリカの輸出シーズンは終盤に向かっており、西ケープ州の生産者は10月上旬に米国への出荷を完了し、10月末までに輸送、通関を終えるものと予想されている。シーズン終盤のヨーロッパと英国への出荷は、まだしばらく続くと予想される。

グレープフルーツの出荷シーズンは1,520万箱で終了し、昨年より1,470万箱を上回った。マンダリンとソフト柑橘類は3,800万箱から4,170万箱に増加し、レモンは昨年の3,560万箱から約100万箱の減少、ネーブルオレンジは2,490万箱で横ばい、バレンシアオレンジは昨年より約200万箱少ない4,910万箱と予想されている。

執筆者: フレッド・メンチェス